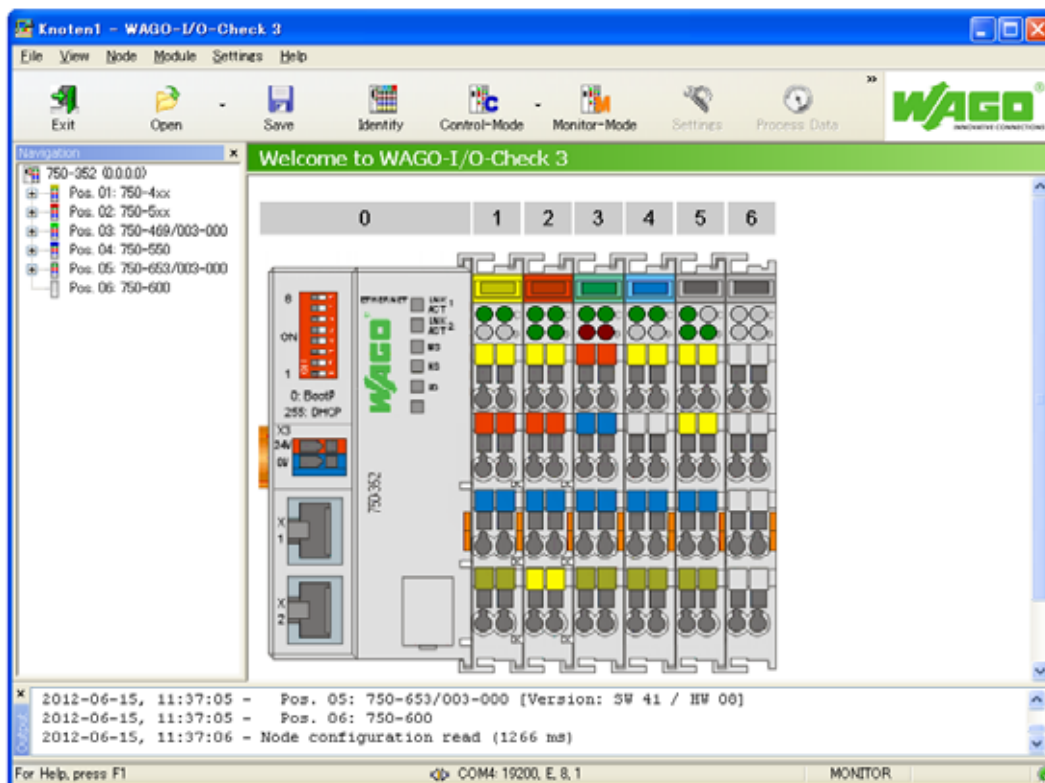


WAGO → I/O → SYSTEM 759

WAGO-I/O-CHECK 3



簡易マニュアル

759-302

<2012.06.10>

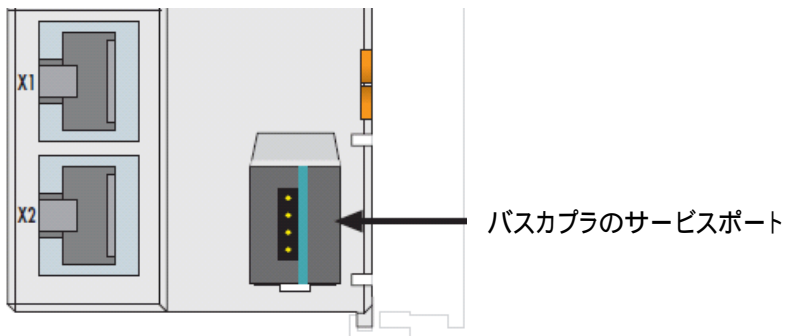
WAGO-I/O-CHECK 3 は WINDOWS のアプリケーションで WAGO-I/O-SYSTEM 750 シリーズの I/O モジュールの入力及び出力をフィールドバスに接続することなくパソコンのシリアルポートと製品付属の専用ケーブルで接続することによりチェックすることができるソフトウェアです。

ノードに接続されているモジュールをグラフィカルに表示し、入力モジュールの入力表示や出力モジュールの出力が行える為、PLC に接続する前にセンサの動作、I/O との結線の確認が可能です。

その他の機能として設定可能なアナログや特殊モジュールの設定も行えます。

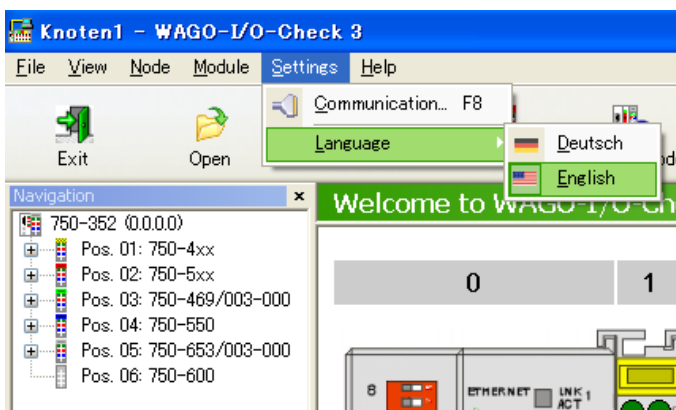
使用方法

ケーブル(750-920)の D-SUB9P 側をパソコンのシリアルポート(RS-232C)につなぎ、専用コネクタ側をバスカブラ・サービスポート口へ差し込む

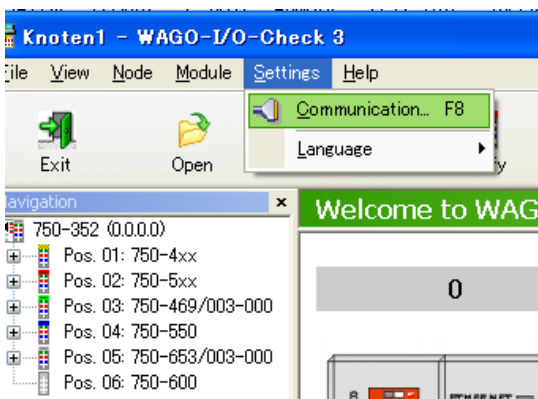


USB 接続タイプ 750-923 の場合はパソコンの USB ポートに接続してください。

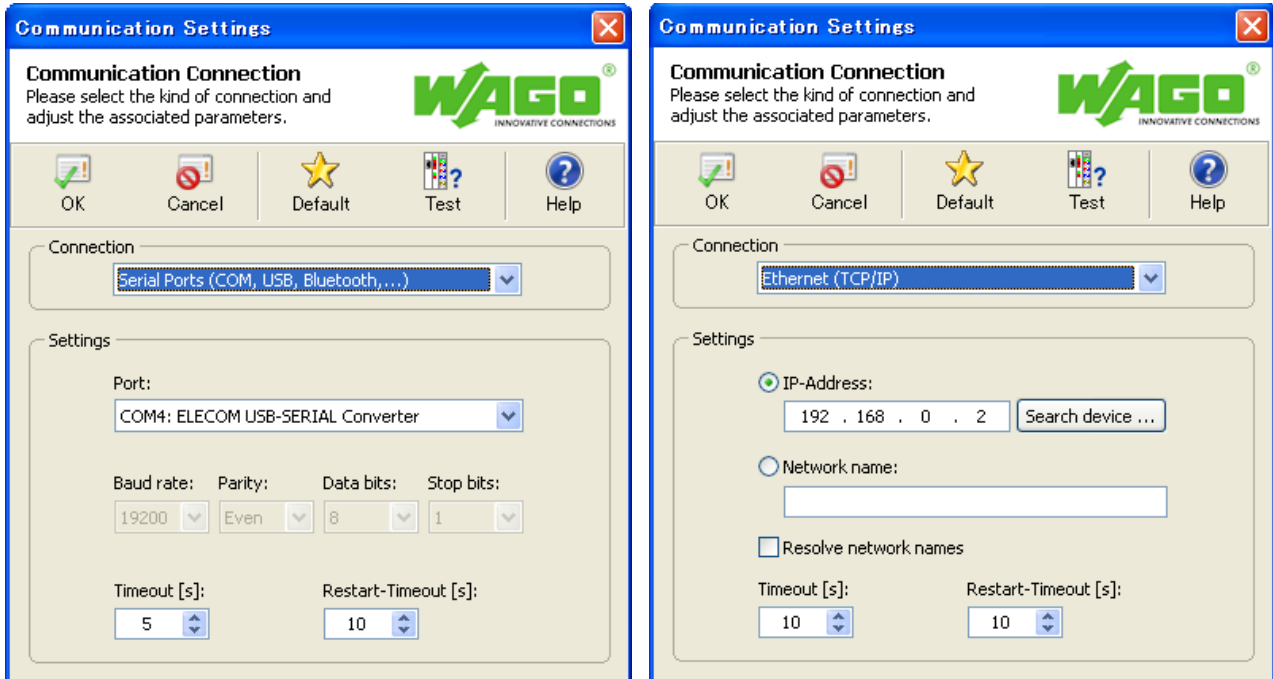
ソフトを起動させ、Setting メニュー Language で English (英語) または Deutsch (ドイツ語) を選択してください。



同じく Settings メニュー Communication で Communication Settings ダイアログボックスを表示させてください。

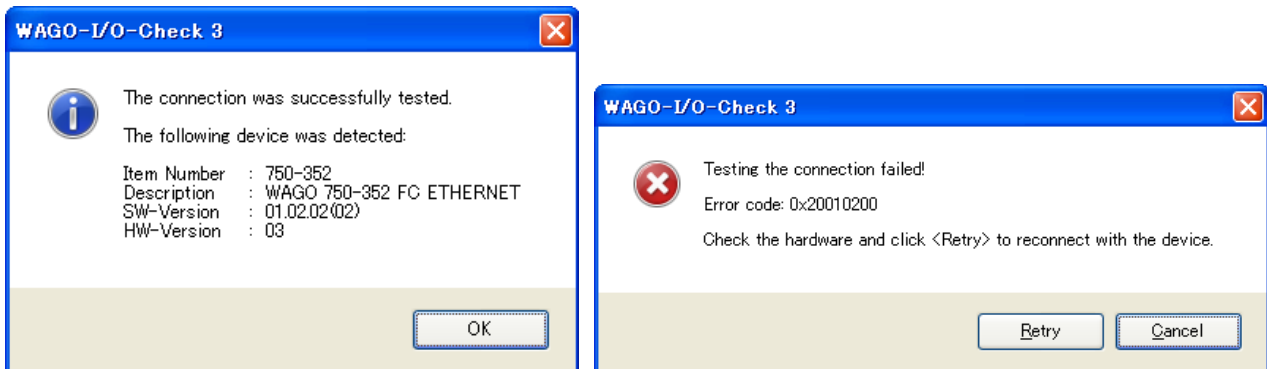


Connection で接続方法を Settings で接続先をそれぞれ設定し、Test ボタンを押し接続が確立できるかを確認してください。

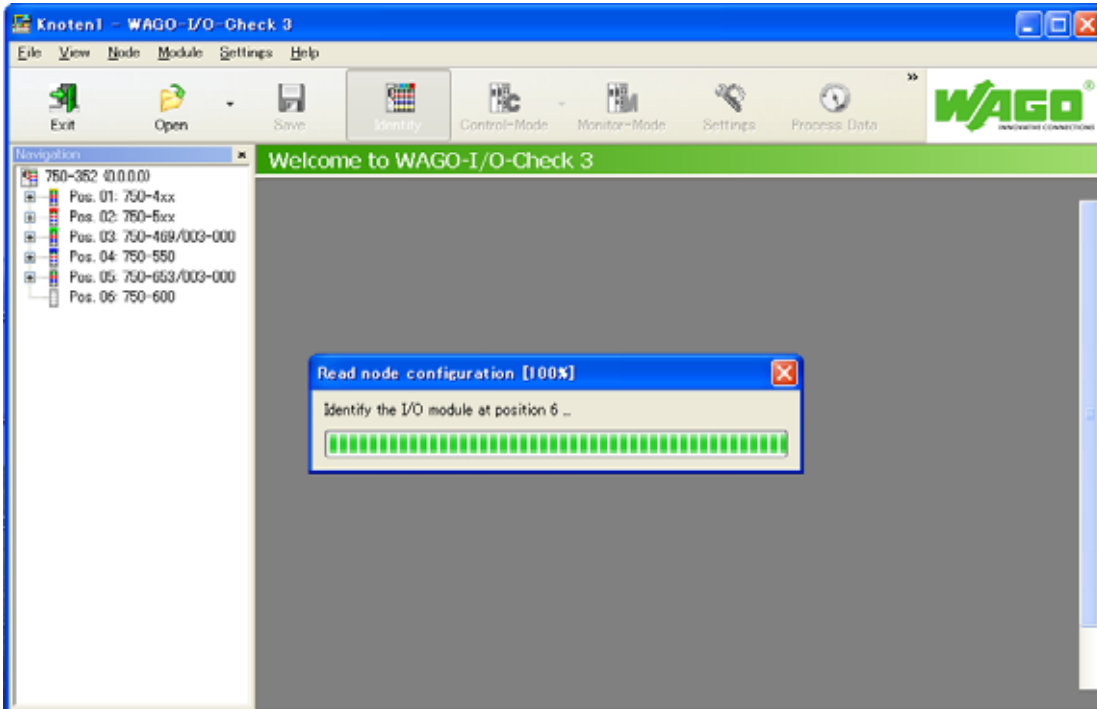


Connection では Serial および Ethernet (Ethernet 製品のみ)を選択することができ、Connection の選択にあわせて Settings の設定パラメータを個別に設定します。

“The connection was successfully tested”と表示された場合は接続に成功しましたので、OK ボタンを押し、さらに Communication Settings の OK ボタンを押しして通信設定を終了してください。“Testing the connection failed”と表示された場合は接続確認に失敗していますので各パラメータや PC の通信設定など確認してください。



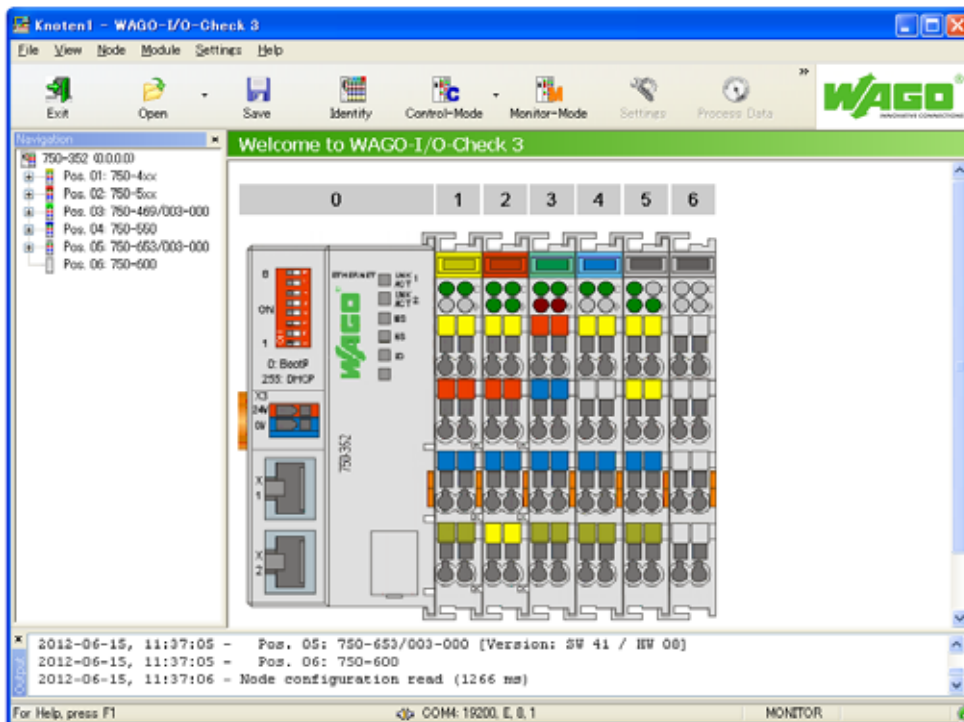
Identify ボタンを押せばモジュールおよび通信ユニットの情報を読み取りノードを表示します。



ノード表示がされない場合には？

以下の場合にはノード表示に失敗します。

- ・ コントローラタイプの通信ユニットでプログラムが起動している。
- ・ 上位とフィールドバス通信が確立している。
- ・ (必要なモジュールで) センサ / アクチュエータ電源が印加されていない。

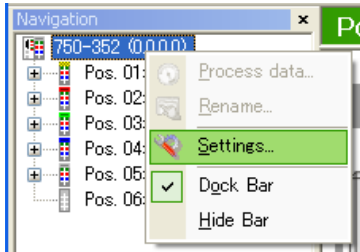


Navigation

画面左側 Navigation ウィンドウでは対象にカーソルを合わせ右クリックすると以下を行うことができます。

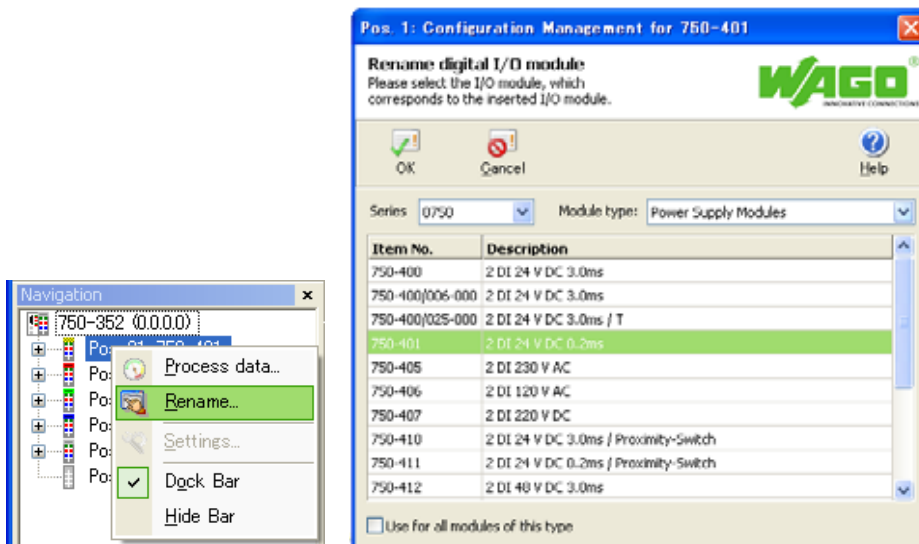
(1) Ethernet 設定 (Ethernet バスケーブル / コントローラのみ)

Ethernet タイプの通信ユニットの場合、対象通信ユニットにカーソルを合わせ右クリックするとメニューが表示され、Settings を選択すると Ethernet 通信ユニット設定用ソフトウェア "Ethernet Settings" にリンクします。(インストールしている場合のみ)



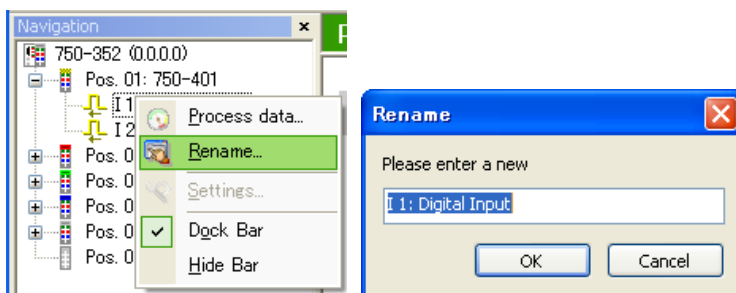
(2) デジタル入力 / 出力モジュールの個別モジュール型番割当

デジタル入力 / 出力モジュールの場合、ノードのスキャンの際、デジタル入出力別およびチャンネル数の特定のみを行います。機能上問題はありますがモジュール構成などを記録したい場合は、デジタル入力 / 出力モジュール上にカーソルを合わせ、右クリックするとメニューが表示され、Rename を選択すると、Configuration Management ダイアログが表示されますので適合するモジュールを選択して OK ボタンを押してください。



(3) モジュールの各チャンネルの名称変更

モジュールの各チャンネルには I x*: Digital Input (*x はチャンネル) という名称が割り当てられています。それを変更したい場合はモジュールの各チャンネル上にカーソルを合わせ、右クリックするとメニューが表示され、Rename を選択すると、Rename ダイアログが表示されますので新しい名称を書き込み OK ボタンを押してください。

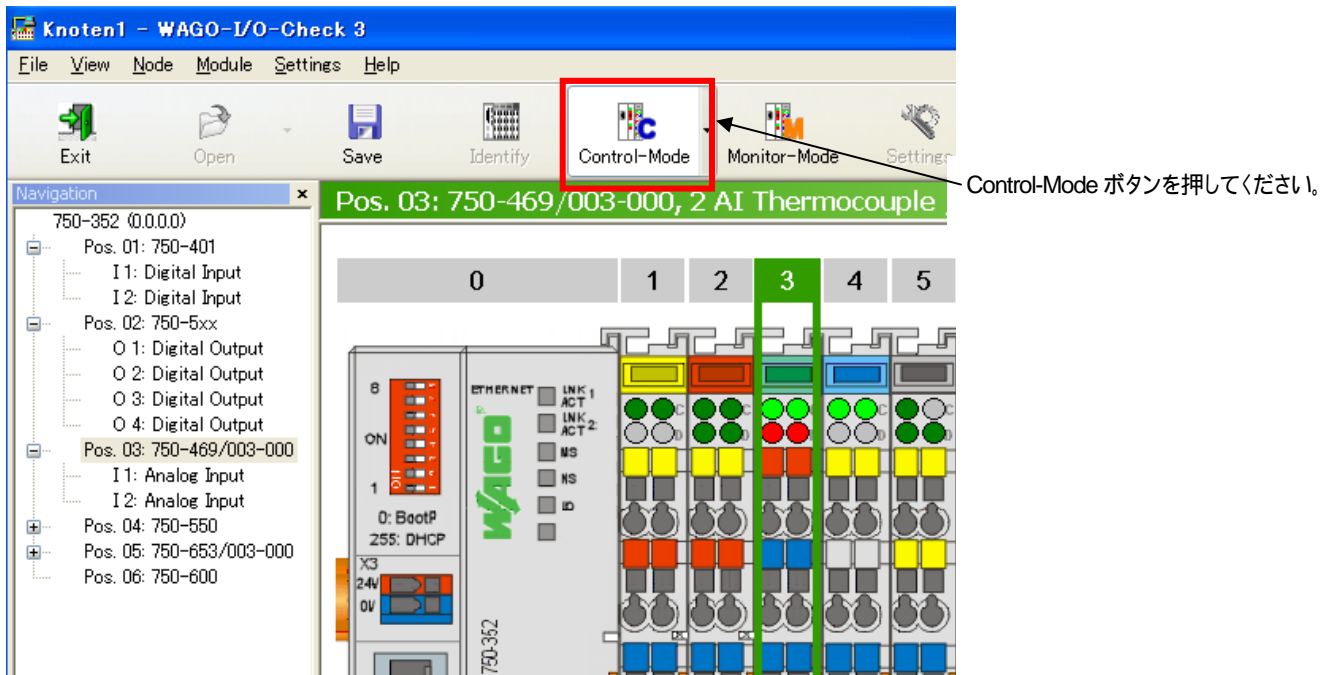


(4) 設定可能型モジュールの設定

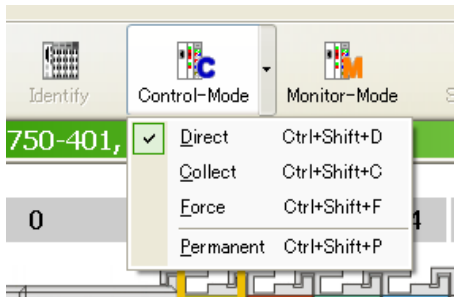
設定可能型のモジュールではモジュールにカーソルを合わせ右クリックするとメニューが表示され、Settings を選択すると各設定ダイアログが現われます。設定については各モジュールの取扱説明書を参照してください。

機能 1: コントロールモード(出力と入力モジュールの動作確認を行う場合)

コントロールモードでは入出力モジュールの動作確認を行うことが可能です。

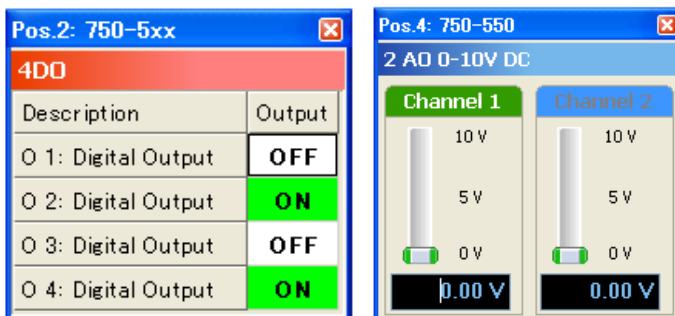


コントロールモードではボタン右側のインデントを開くと以下の制御方法を選択することが可能です。



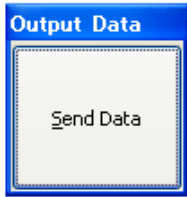
(1) Direct

Direct はモジュールをダブルクリックするか、または Process Data ボタンを押すことで現われる Process Data ダイアログにて設定した内容がデジタルおよびアナログ出力モジュールで直接出力します。つまり、実際の信号がポートから出力されます。



(2) Collect

Collect を選択した場合は、Output Data ダイアログが現われ、Send Data ボタンを押さない限りは Process Data ダイアログで設定した値に対して実際の信号はモジュールに出力されません。



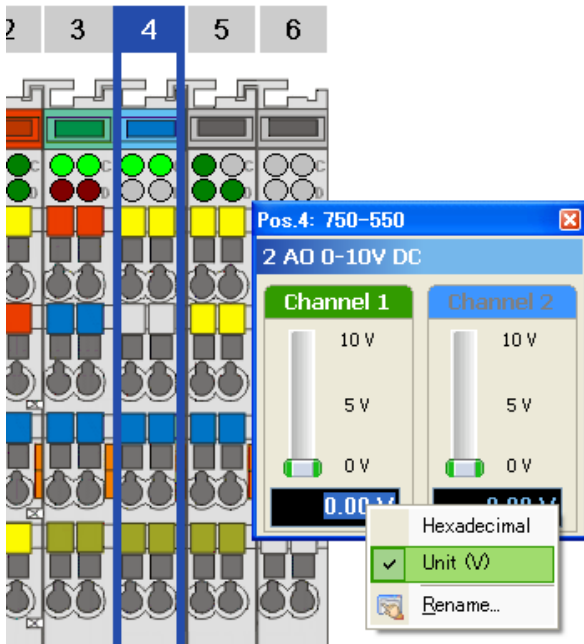
(3) Force

Force を選択した場合はキー操作中のみ制御が有効になります。

(4) Permanent

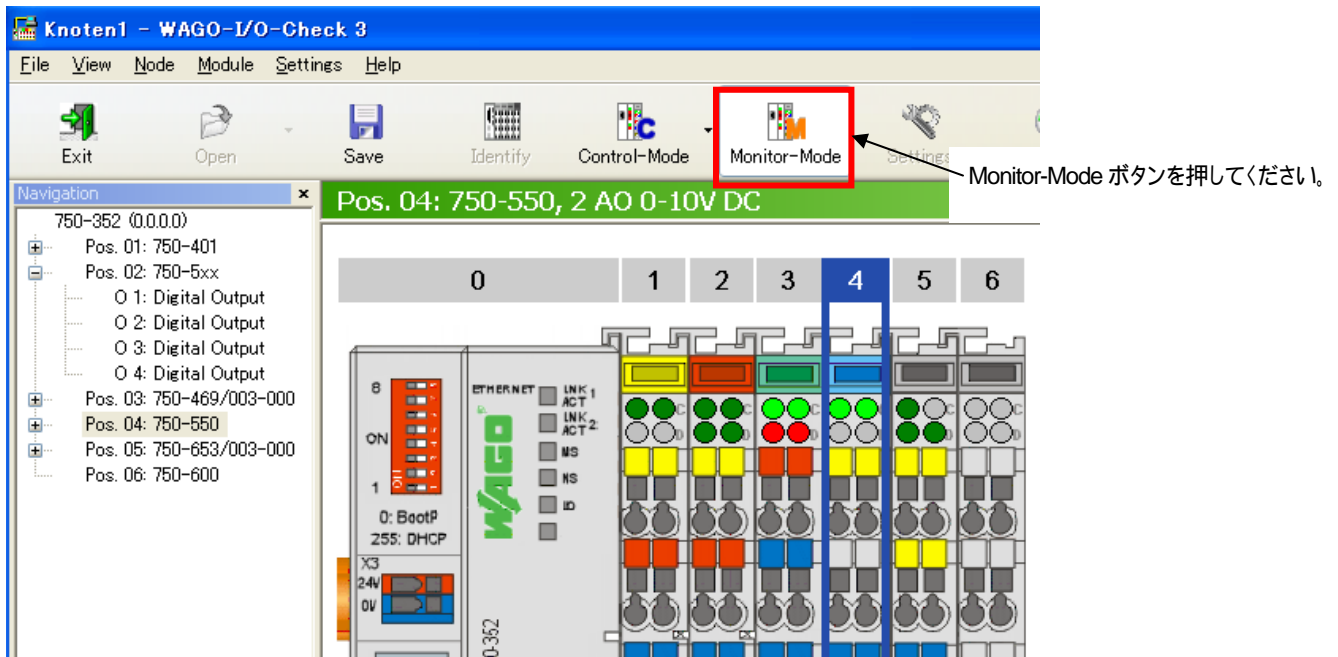
Permanent を選択した場合は、ここでの操作がソフトウェア終了後も有効になります。

アナログ出力や特殊モジュールについてはモジュールによってプロセスイメージ入力への変更が可能です。

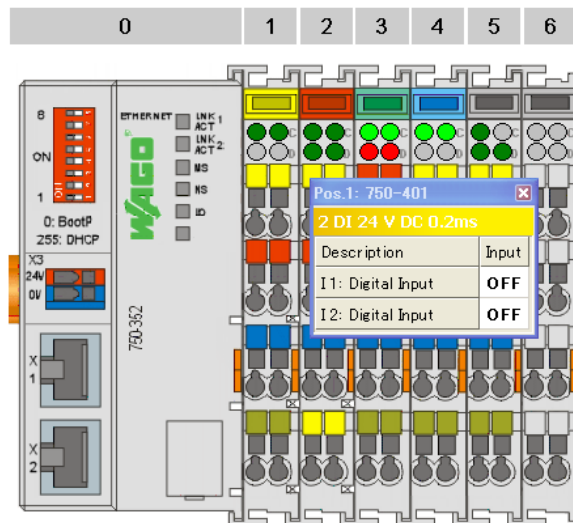


機能 2: モニターモード(入力モジュールの動作確認のみを行う場合)

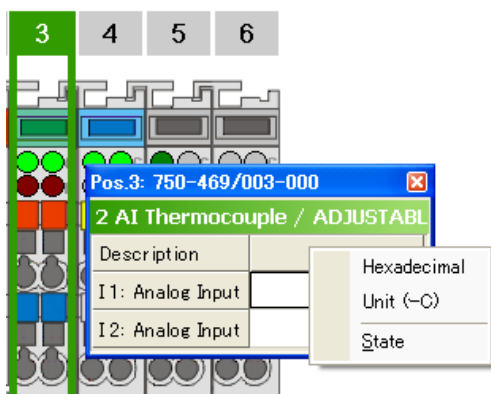
モニターモードでは入力モジュールのみの動作確認を行うことが可能です。



なお、Process Data ダイアログはコントロールモード同様に表示させることが可能です。



アナログ入力や特殊モジュールについてはモジュールによってプロセスイメージへの表示変更やステータス表示が可能です。



データの保存

スキャンしたデータは File メニューで Save As または Save で xml ファイルとして保存できます。

